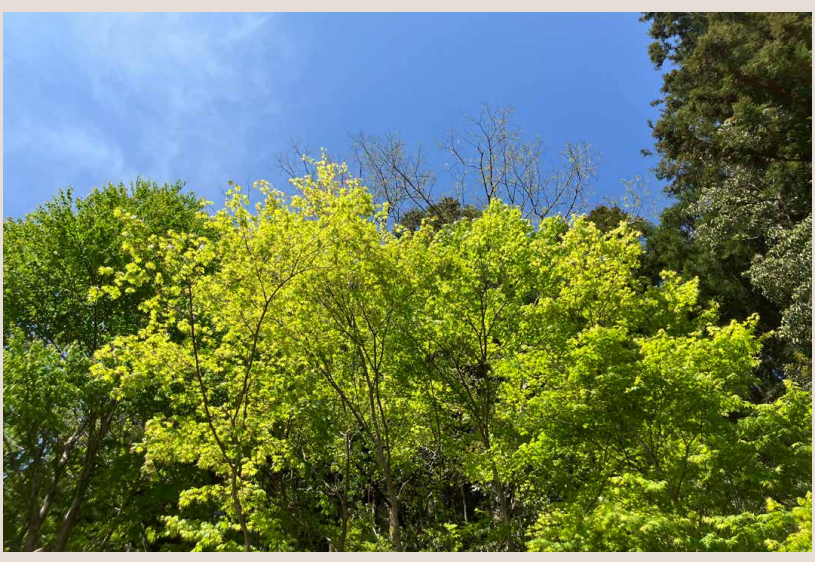
大久野通信 vol.32

新緑の季節



夜明けが早くなり、 早朝が心地よい季節となりました。 積極的に汗をかき、 間もなく訪れる猛暑に耐える体をつくるにはちょうど良い季節です。 気温上昇と共に急成長するのが厄介者の雑草ですが、 土壌と相性が良いから自生するのです。 彼らを先住民と捉えると畑で育てる作物は移住者。 畑で除去した草はその場に被せておくのが良く、 保湿と肥料効果で健全な土壌環境が維持できるのだそうです。 今年から雑草をマルチ代わりに試用してみます。

INDEX

・里山の恵み

・里山の廃棄物利用

・今後の展望

里山の恵み

たけのこは、 1 年おきに豊作の年があり「表年」と呼ばれています。 今年がそれに当たり、 4 月初旬は全く姿を現さなかったたけのこが中旬から下旬に掛けて一斉に顔を出しました。 その成長は驚異的で、 数日で立派な若竹に成長します。 景観のバランスを考慮して収穫せずに部分的に残すのですが、 次から次にたけのこが出現します。 茹でて冷凍すれば、 1 年中楽しむことができます。 また若竹は塩漬けにしてメンマに、 1 か月後が楽しみです。 更に、 ワラビや山ウドなどの山菜も豊富なので、 里山の恵みには事欠きません。 畑では様々な作物が収穫できますので、 質素に暮らせば食料自給率はかなり高い割合となります。 人々の生活が豊かになり、 それを満足させるために輸入割合が増えている、 食料自給率低迷の本質はそういうことなのではないでしょうか。

竹林の様子

竹の周囲にたけのこ

里山の廃棄物利用

畑に繁茂する草類は土を健全化させるために畑に被せる方針ですが、 それ以外の場所で除草した草類は敷地の一角に山積みしています。 数年放置することで堆肥化はするはずですが、 あまり見た目が良くありません。 自然浄化法リアクターシステムで浄化された水には腐植成分が含まれており、 落ち葉などの堆肥化促進に利用している事例がありますので、 除草による草類にもその効果があるのかを試験してみることにしました。 雑然と積み上げていた場所を整備して、 浄化した水の有無での比較ができる施設を作り、 整ったイメージの堆肥場を構築しました。 これで浄化水に明確な効果が出てくれたら、 面白いことになります。

堆肥場整備前

堆肥場整備後

今後の展望

JNC エンジニアリングでは、 バイオ炭として認められた竹炭をカーボンニュートラルの資材として普及させたい、 そんな思いで「地球を救う園芸キット」を企画して配布活動を行っています（https://jnc-eng.co.jp/archive/2025/07/161/）。 このキットはサンプルなので片手ほどの小さいサイズですが、 プランターサイズを試作することにしました。 自宅のベランダなどで家庭菜園を楽しみながら地球温暖化抑制活動に協力して頂くのが狙いです。 また、 庭や菜園をお持ちの方にも取り組んで頂く目的で、 株式会社アール・ビー・エス（弊社グループ）で製造する有機質肥料 RBS ゴールドと、 大久野倶楽部で作る竹炭を 1 kg 程度のサイズでお配りする準備も進めています。 いまを生きる我々には、 地球温暖化に歯止めを掛け、 明るい未来を子供たちに引き継ぐ責任が有ると大久野倶楽部は考えています。